

NEXT 長崎人材育成事業 長崎県立長崎鶴洋高等学校 外部講師招聘事業・意見交換会報告

1 日 時：令和6年12月10日（火） 13：15～17：00

2 場 所：長崎県立長崎鶴洋高等学校 会議室

3 出席者：19名（産業界6名、知事部局1名、学校8名、高校教育課4名）

4 目 的：

長崎鶴洋高等学校の授業見学・施設見学および水産分野における人材育成について意見交換会を実施し、学校と産業界との連携の在り方について検討するとともに、関係者の相互理解と親交を図る。

5 日 程：

- 13：15 受付
- 13：20 名刺交換
- 13：40 外部講師招聘事業
- 15：20 休憩
- 15：30 開会・あいさつ・参加者紹介・概要説明
- 15：55 意見交換会
- 16：55 まとめ・諸連絡
- 17：00 解散

6 外部講師招聘事業（株式会社シーエーシー、株式会社昌陽水産）  
株式会社シーエーシー

- ・スマート水産業とは、いろんな課題があって今後続けていけるかが危ぶまれている水産業を先進的な技術を活用し、これからも持続できるようにすることだと思っている。（キーワードはデータとAI）
- ・従来の経験と勘では追いつけないくらいの劇的な社会環境の変化がある。（物価高騰や魚価の低迷、水温の上昇など）
- ・AIを活用して、動画や画像により魚のサイズを判断できるように現在実証実験を行っている。このことで成長に必要なエサの量を管理できるのでエサを無駄にしない（海を汚さない）。
- ・スマート水産業に取り組むためには、パソコンに強い人（PCは友達）。



昌陽水産

- ・社会人として仕事をする意味とは？任された仕事の重要性を知る。

- ・やりたい仕事を見つけると自然と仕事が楽しくなる。(続くきっかけにもなる)
- ・養殖業とは、きつい・汚いイメージがあるが、そういったものは無くなりつつある。餌も自動でやっているし、女性でもできる。(実際に現場で女性も活躍している)
- ・養殖のイメージを払拭したい。CACと一緒にするようになって、仕事が大きく変わった。
- ・天然魚の場合、乱獲など取りすぎた場合は値段が下がったりするが、養殖は自分で値段を決めることができる。
- ・長崎を若い力で盛り上げて欲しい(新しいアイデア、挑戦がしたい人)



## 7 意見交換会

### 昌陽水産

- ・若い子は休みが必要、週休2日制を養殖業で初めて取り組んでいる。新卒の子にお金がいいか、休みがいいかと聞いたら、休みがいいと言っていた。
- ・仕事を楽しめるかは仕事の雰囲気づくり。入社した子は楽しいと言ってくれている。SNSなどで発信をしていかないといけない。今後、SNSの担当を入れたいと思っている。SNSから受注に繋がったりしている。
- ・機械化が進んでいるが、それでも体力が必要。自分に言い訳をしないこと。



### シーエーシー

- ・宮城県の銀鮭養殖業社長から、銀鮭が売れて売れて儲かっているの、宮城の子はやりたがる子が多いと聞いた。給料が高いことも魅力の一つにつながるのではないかと。



### シーエーシー

- ・高校生にはお金の使い方(収入・支出)を理解する必要がある。社長として経営するとなれば、全体を把握し、社員に給料を支払うため、経営のセンスが必要。
- ・販路拡大のためにSNSの活用を授業の中でどう取り込んでいくことができるのか。
- ・日本国内の販路は縮小していくが、世界を見ると人口は拡大している。そこに目を向けて商売をしていけば商機がある。そのためには語学が重要

### 水産経営課

- ・就業相談を受ける時に、お金のことを求めている人は少なく、自分が自由に使える時間を求める人が多い印象。水産の現場、休みが不定期である。

### 県漁連

- ・豊洲も週休2日制になってきていて、女性でも水産業界に就く人が増えてきている。学校が土日休みになっているので、そこから休みを変えられない現状。
- ・ITとかいう話がでてくるが、今の子どもたちがスマホになれて、ブラインドタッチができない。養殖な

どもシステム化されているが、タイピングができないと仕事が進まない。

十八親和銀行

- ・地方銀行として一次産業への支援があまりできていなかった。今回のスマート水産業の取組で生け簀の魚の試算を算出し、融資ができるようになる。
- ・生徒だけではなく、学校の教員もリスキリングの場が必要ではないか。
- ・地域には課題があるが、それを解決する力がない。半面、都市部にはその課題を解決することができる企業がある。そのつなぎ役になりたい。



長崎鶴洋高校

- ・水産の魅力をどう伝えていくか。保護者の方が、3K のイメージがあったりするので、変えていけないといけな。水産関連の仕事に就く生徒が少ない。
- ・これまで生産から加工までを授業でしてきたが、販路拡大(流通)の授業となると生徒の興味が薄れてしまっていた。今回の話を聞く中で、流通分野の大切さを痛感した。(経営に繋がる)
- ・広くいろんな業界の生の声を聴けることがこの事業のいいところと感じている。
- ・金融関係がなぜ重要なことなのかを知る機会になるのではないかと期待している。
- ・高校に船員になる生徒がおり、長期航海実習を行っている。なぜ船会社に行くのかと収入が大きいからとのこと。併せて、学校で学んだことを活かせるということで進んでいる。このことも踏まえて関連して儲かる水産業になればと考えている。



## 8 アンケート結果

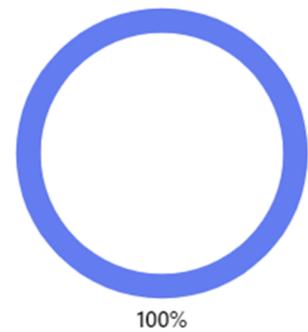
< 産業界 >

出前授業の感想をおきかせください。

- ・高校生が飽きないように工夫することの大切さと難しさを改めて学びました
- ・生徒たちの柔軟な考えはぜひ参考にして会社をもっとよくしていきたいと思いました
- ・生徒達目がイキイキしていて今後の活躍に期待できる

意見交換会はいかがでしたか。

- よかった 3
- だいたいよかった 0
- あまりよくなかった 0
- よくなかった 0



意見交換会の感想をお聞かせください。

- ・皆様方の考えることは自分には難しかったんですけど、こういう考え方もあるんだと感じました

水産教育・水産人材の育成における課題は何だと感じていますか。

- ・皆様、水産業や教育をなんとかしたいという熱意を感じました
- ・水産に興味をもちこうなりたいと夢をもたせることだと思います
- ・SNSで仕事内容などを発信して水産のことを知ってもらおう。

今後、産業界と教育現場、県の関係部局が連携しながら取り組んでみたいことがあれば、その内容を具体的にお聞かせください。

- ・水産業や養殖業が社会的に意義のある仕事であることや、地域活性化を担うにあたっての前提になる地域に愛着をもってもらえるような地域の魅力の発掘・発信といった活動ができればと思いました
- ・色々な魚種の養殖にチャレンジしたいです
- ・実習で稚魚などを飼うと思うのですが中間育成してもらいその後自分達の漁場で育成する事でその後生徒達が養殖現場に来て実習できて出荷、販売まで一緒にできれば良いと思う。

その他、本事業や学校への要望・ご意見があればお聞かせください。

- ・月並みではあり、もう取り組まれているかもしれませんが、地元産業の支援や体験を通じたpr活動などは地域愛が育ち、企業側も長野さんのような地元で愛されることを意識している方との交流を増やすことを通して、入学希望者が増えたらなと思いました
- ・もっと職場体験を増やしたらいいとおもいます
- ・色々な魚を中間育成して欲しい

<学校>

今回の出前授業の感想をお聞かせください。

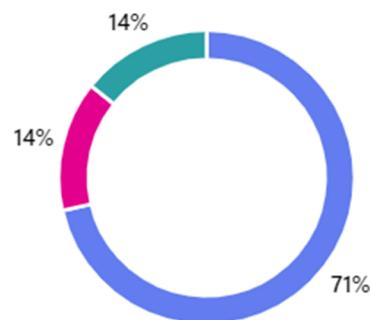
- ・とても有意義だったと思います。
- ・スマート水産業及び地域の養殖業における現状を理解することができ大変有意義であ

った。

- ・それぞれの立場でお話していただき非常に興味を持てる内容でした。特にスマート養殖業ではそれほど高価な装置ではなく民生品（GoPro）の有効活用といった想像していたものとは違っていたので驚きでした。また、永野さんは卒業生ということもあり生徒目線で話していただいたので生徒にとっても非常にわかりやすく聞きやすい内容でした。
- ・養殖業者（卒業生）による現場の生の声を聞くことができ、生徒にとっては非常に参考になったと思う。
- ・養殖関連企業や漁業系の就職を希望する生徒にとっては良い機会になったかと思いません。海技士（航海・機関）を目指す生徒には関心が低い内容であったと感じます。今後の取り組みとして水産業界の各業種の講演や生徒との交流が増えると興味がある内容が出てくると思います。
- ・株式会社 CAC 様と株式会社昌陽水産と一緒に講演していただき、有意義な時間でした。（株）CAC 様を先生方や生徒に知ってほしいという思いもありました。今後、長崎の水産業で活躍される企業だと確信しております。後日、生徒には生け簀の資産についての授業などができたので、深い学びとなりました。

#### 意見交換会はいかがでしたか。

● よかった	5
● だいたいよかった	1
● あまりよくなかった	1
● よくなかった	0



#### 意見交換会の感想をお聞かせください。

- ・とても参考になりました。
- ・様々な視点から「水産」に関して意見交換ができた。今後の、水産教育や NEXT 人材育成事業の展開に参考となる意見を聞くことができた。
- ・始まったばかりですが、非常に効果的な意見交換ができ良かったです。1度切りではなく継続して実施できればなお良いと思っています。（導入、途中経過、まとめ）今回の繋がりを発展させ、本校はもちろん長崎県の水産業が盛り上がっていかれたらと思っています。
- ・各論についての協議であれば、専門外となる参加者もいたと思うため、「NEXT 人材育成」の観点で意見交換できたことが、とても有意義であったと感じる。
- ・企業側が求める人材像と学校側の教育で育成できる人材の理解や今後の活動に向けて情報共有がよりできるとよかったですと思います。
- ・県漁連の松浦様からヒジキに関するご意見をいただけたことでこれからの展望が明ら

かとなりました。また、株式会社昌陽水産の長野様からのお話で、ロープワーク・網修理を充実させた学びにしたいと強く思いました。大変有意義な意見交換会だったと思っております。

- ・学校から提出している内容が管理類型に関することのみであったため、航海の担当としては意見交換を聞いてもあまり効果はなかった。

水産教育・水産人材の育成における課題は何だと感じていますか。

- ・長崎県の少子高齢化に端を発していると思います。
- ・「水産」に携わっている人は水産の魅力を理解しているが、水産業は海上での仕事がほとんどであり、仕事内容をすぐに見ることができなかつたり、人々の生活域から離れた仕事であるため、イメージがしにくい。特に、地域の水産業については、理解されにくい。昌陽水産の話にも合ったようにこれまでの水産のイメージ（きつい、汚い、危険など）を払しょくする必要がある。
- ・「魅力の伝え方と本校に対する理解」ではないかと思えます。  
永野さんの出前授業でもありましたが、昔のマイナスイメージが非常に強くあり、選択されにくくなっていると感じています。本校で学んだ生徒は、大多数が水産・海洋関連産業に進んでいるため、いかに中学生やその保護者、中学校の教員に対して本校の教育活動を理解していただくか、また水産業について、ICTを活用して業務の効率化を行い、生産性を上げ「儲かる水産業」をアピールできれば若者の選択肢にも大きく影響していくものと思います。
- ・教員の連携不足。例えば、教員数の制約や時間的制約、情報共有不足など。
- ・まずは水産科生徒の志願者増
- ・生徒数が減少していることで、専門的な分野に興味を持つ人材が少なくなっている
- ・水産に関する「技術」を学ばせることが必要です。そのためには教員が学ぶ場が必要だと考えます。教員は日々の仕事で、技術を学ぶ時間がありません。去年は中堅研にて長崎市水産センターで3日間研修をさせていただきました。そのような研修があれば教員も学ぶ機会となり、生徒に還元できると思います。
- ・教員に経験者がいないこと。

今後、産業界と教育現場、県の関係部局が連携しながら取り組んでみたいことがあれば、その内容を具体的にお聞かせください。

- ・見学や卒業生との対話があればいいと思います。
- ・今回は昌陽水産であったが、他にも長崎県内各地で水産業を営んでいる、もしくは水産業に携わっている本校の卒業生がいるので、それらが一堂に会して、県内水産業の課題や展望について、意見交換する機会を設けたい。その中には本校の生徒も入れたい。
- ・水産部（水産経営課？）とも連携し、長崎の主たる水産業の一つである旋網漁船との連携もできればと思っています。
- ・技術的な連携では、水産分野を一度に網羅することができない。そのため、複数分野の

産業界の生の声を、生徒に伝えることにより、生徒の興味ある分野を絞り込ませたい。これにより、生徒の就労意欲や進学意欲の向上が期待できると思う。例えば、学校側で企業や上級学校を精選し、県の関係部局より依頼していただくことにより、産業界との結びつきを構築していただけるとありがたい。学校と企業が直接結びついてしまうと、他校や他企業から癒着などの憶測を招く恐れがある。

- ・ 養殖現場見学実習等の企画をもっと実施しやすいように予算等組んで頂きたい。
- ・ 巻き網漁船、底引き網漁船、運搬船などへの1週間程度の短期乗船
- ・ 私たちのコンサルティング分野では今以上の取り組みを増やすことができませんので、現在の課題を解決していきたいと思っています。
- ・ 巻網漁船、トロール漁船、タンカー等での1週間程度連続したインターンシップを行わせたい。

その他、本事業や学校への要望・ご意見があればお聞かせください。

- ・ 予算をもっと増やしてほしいです。
- ・ 昌陽水産のスマート水産業については理解できたが、他にスマート水産業の取り組みをしている水産会社があれば話を聞きたい。
- ・ 今回お世話になった機関をはじめ様々な機関と繋がりを持って取り組み、本県の水産業の発展に寄与していきたいと思っています。
- ・ 局所的・技術的な連携よりも、広範囲のサポートが可能となる事業を望みます。
- ・ 私はコンサルティング分野の担当教諭ですが、情報通信の電気回路と半導体を教えています。教科書の内容を教えることは可能ですが、それがどのように情報通信に活用されるのか、生徒の深い学びに繋がられないことにもどかしさを感じています。本来なら専門の先生が教える方がいいと思いますので、その点では課題です。